ちえん

季刊

東海大学と地域が創りだす、地の縁・知の園・地の宴。

Chi·e·n

キャンパスに飛びかうシニアたちの歓声

年に1日は近隣に暮らす市民の方々を
キャンパスに迎えたいとスタートした
「TOKAIグローカルフェスタ」

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、
今年度の開催は中止となるが
天然芝の広場にはシニアたちの歓声が残る

地域に開かれる大学を目指し
再会できる日を待つ

2019年10月19日 「TOKAIグローカルフェスタ2019」で、芝生広場「Palette パレット」で行われた「人生100歳時代グラウンド・ゴルフ大会」の様子

02-03
第13回"ちえん"をつくる人々
2019年度東海大学連合後援会研究助成金地域連携部門
「大学生による中学生のための学習支援:東海大学ESD塾」

04-05
ちえん探訪記
＃05「平塚市×観光学部」

大学から地域へ
卒業生の方々による地域貢献

06-07
つかのはらオンライン
大学と地域のオンラインでの連携活動をご紹介

チャレンジセンターNews

学生4コマ漫画 I・MA・DO・KI
第13回 「リモート!」

International student's げしゅくLife

08
新たなスタイルで学ぶ 新しい日常 生涯学習講座 Vol.5
「考古学講座 −先史時代人が崇めた火山と月と太陽−」

Information

TAKE FREE
September 2020 Vol.13

東海大学地域連携紙「ちえん」（湘南版）Vol.13
発行日／2020年9月28日
発　行／東海大学地域連携センター
後　援／平塚市、秦野市、伊勢原市

昨年12月と今年１月に湘南キャンパスで行われた、「パブリック・ワーク」と「挑み力演習」の履修学生たちによる「対話のちからをはぐくむプログラム」の様子

持続可能な開発のための教育を実践する
自ら考え、集い、挑み、成し遂げる力を育む

第13回　“ちえん”をつくる人々
2019 年度東海大学連合後援会研究助成金
地域連携部門

「大学生による中学生のための学習支援：東海大学 ESD 塾」

大学生が中学生に勉強を教え、交流し、居場所をつくる――2018年1月からスタートした「東海大学ESD塾」は、社会教育主事や教員の免許取得を目指す学生たちが週1回、湘南キャンパスに秦野市立大根中学校の生徒を招いて、ボランティアで勉強や宿題をサポートしてきた。教科学習で身につけられる認知能力と、自ら考え、集い、挑み、成し遂げるといった、テストでは測れない非認知能力を育成する、「持続可能な開発のための教育」の取り組みを紹介する。

取り組みを続け、他大学や地域に示すモデルをつくる

1980年代に誕生した「持続可能な開発」という概念は、2016年から30年までの目標として「SDGs（持続可能な開発目標）」が推進される中で、社会にも広がりを見せています。ただ、これは何かをすれば持続可能な社会になるという正解があるわけではありません。重要なのは、私たち一人ひとりがどういう社会を望んでいるかを考え、共有し、それに向けて自分が主役になって社会をつくっていくことです。その下支えになるのが教育ですが、そういう面で必ずしも万全ではなかった教育のあり方を変えていく、それが「持続可能な開発のための教育」と訳される「ESD」の考え方です。

18年に始まった「東海大学ESD塾」は、大学生による中学生の学習支援を通じて、それぞれが持続可能な社会づくりに主体的に参画できる力を育むことを目指しています。教科学習で身につけられる認知能力と、考えたり表現したり行動したりする、テストでは測れない非認知能力を併せて育てることを目標としており、非認知能力に関しては、1年目は「防災」を、昨年は「対話のちから」をテーマに、「挑み力演習」と「パブリック・ワーク」の授業を履修している学生が考えたプログラムを実施してきました。

ESD塾の活動は、もともと東京農工大学で、私が環境教育・ESD研究の分野でご一緒してきた朝岡幸彦先生、降旗信一先生らが始められた取り組みでした。「東海大学版ESD塾を立ち上げられないか」という話が上がったときに、社会教育主事課程や教職課程の授業を担当し、地域の学校とのつながりがあった課程資格教育センターの古里貴士准教授と高梨宏子講師（現在は現代教養センター）の協力を得て東海大学ESD塾を立ち上げました。

学習支援の対象がなぜ中学生かというと、地域の軸である中学校は大学が地域課題に向き合うために連携を強化していくべき重要なパートナーであり、また、中学生時代は学力低下や不登校といった問題が顕在化し、深刻になる時期でもあるからです。その背景には、経済状況や学習環境などの格差の問題に加え、教育や社会が時代とともに大胆な変容を求められている状況があり、中学生が抱える問題には社会全体の問題が反映されているのです。

現代教養センター　ニノ宮リムさち准教授

週1回、数時間だけの取り組みでもあり、持続可能な社会につながる力の育成をどこまで実現できているかという課題はありますが、大学生と中学生が同じ時間を共有することで、それぞれの居場所づくりになっているという成果も見えました。中学生にとっては、先生や親、友達に言えないようなことを大学生にだったら話せたり、大学生の話を聞いて新たな視点を得たりして、自分の世界を広げる場にもなっているのではないかと思います。

今後も大学生と中学生のやり取りの中で、ESDを実現しつつ、この取り組みを他の大学や地域、国にもモデルとして示していけるように整理や検討を続けていきたいと考えています。

中学生にとって居心地のいい場所をつくる

課程資格教育センター　古里貴士准教授

東海大学ESD塾は、大根中の生徒に湘南キャンパスに来てもらい、大学生が数学や国語、英語などの勉強をサポートするのが主な活動です。今年度は新型コロナウイルスの影響を受けて休止中ですが、昨年度までは中学生の学年暦に合わせて毎週水曜日に行ってきました。

参加する中学生全員が学習に対して必ずしもモチベーションが高いわけではないですし、勉強が得意な生徒ばかりではありません。中学生に限らず、苦手なことを1時間も2時間も続けるのは大変です。でも、東海大学ESD塾は強制されて勉強する場ではないので、たとえば前回は10分しか集中できなかった生徒が、今回は15分できるようになったなど、少しずつでも前進していくような場にしていきたいと考えていました。

とはいえ、大学生も中学生にどのようにアプローチすればいいのか、悩むことが多かったようです。毎回2時間の活動後には、大学生に残ってもらい、振り返りの時間をつくりました。「○○君はこんな様子だった」「こんなことを悩んでいた」と、全体で情報を共有し、それに対して次回はどうしていこうかと課題を明らかにします。すぐにうまくいくわけではありませんでしたが、そういった振り返りを重ねてきました。

学習を支援してはいますが、あまり勉強、勉強と言わずに、中学生にとって居心地のいい場所、自分が自分であってよい場所にすることを大切にしています。それが自己肯定感につながり、学習のモチベーションや学力を向上させると思うからです。

試行錯誤しながら学生たちも成長

中学生だけでなく、大学生の成長も見えたのは大きな成果だと思います。大学生も最初から完璧な学習支援者ではありません。でも、試行錯誤しながら声がけを工夫したり、授業では見られない関係性を築いたりして、着実に成長できていました。

中学生にとっても大学での活動は貴重な時間になっているのではないでしょうか。建学祭などのイベントで地域の方々に来ていただくことはありますが、定期的に大学に通って何かをするという機会はそうありません。その点で大根中の生徒や保護者の方に大学のことを理解してもらえたとも感じています。さらに言えば、学年やクラス、部活が違うとほとんど交流しない中学生が、東海大学ESD塾で新しいつながりや友人関係をつくることができたのなら、それも成果の一つです。

こうした取り組みは学校の理解がないと難しい面があります。まずは大根中との活動を軌道に乗せて、学力向上だけではない部分をサポートできる場、中学生にとって居心地のいい場所を今後もつくっていきたいと思います。

現代教養センター　高梨宏子講師

“先輩”に悩みを相談　いつか恩返しを

秦野市立大根中学校　松本和信前校長

東海大の先生方から「大学と中学校の連携事業を行いたい。認知能力と非認知能力の両面を向上させる場を設定できないか」というお話をいただき、「学習の場ができる」とうれしく受け取りました。大根中は湘南キャンパスと近く、これまでも出前授業などの交流が多かったので、懸念や違和感はありませんでした。

私自身は子どもへの影響を考慮し、あまり顔を出さず、先生方や学生さんにお任せしていました。何度か短い時間、見学させていただいたときには、学校では見られない子どもたちの姿を見ることができました。家庭環境の違いなどから学習に対するスタンスや学力レベルはさまざまで、大学生も最初は戸惑われたはずです。それでも中学生のそばに寄り添ってくれることで、うまく話せなかったり、自信が持てなかったりしていた子が少しずつ変わり、次の週も参加しているのを見ると、本当にありがたいと心に響きました。

物理的、人的に学ぶ場を提供していただいた以外にも、メリットはありました。中学生は進学や学力以外にも、友人や親、好きな子のことなどの人間関係の悩みを抱えています。にもかかわらず、それを学校でも家庭でも言えないことが少なくない。大学生はそうしたつぶやきを拾ってくださるので、心理的に甘えてしまう失礼もあったかもしれませんが、年上の先輩に面倒を見てもらえる現実があることは大きいと思います。中学生には「大根地区に住んでいてよかったね。いつか恩返ししないとね」と話しています。私はこの春で定年退職しましたが、今後もこの活動が続くことを願っています。

生徒たちのサインを見逃さず受け止める

東海大学ESD塾のボランティアをしている友人から誘われ、私も参加するようになりました。熱心に勉強を教えるところというより、中学生と交流する場という感じで、とてもいい場所だと思っています。

大変だったのは最初のころです。初対面の中学生に何を話せばいいか。私自身もコミュニケーションを取るのが少し苦手で、どうアプローチすれば中学生が心を開いてくれるかを考えました。でも、1回話が通じて共通の話題で盛り上がればお互いに打ち解けて、次の週には中学生からも話してくれました。男の子とは最近のアニメなどの話で仲良くなりました。

活動を通じて、中学生はいろいろと悩んでいることを知りました。会話の中でポロッと漏らすことがあり、そういうサインを見逃さないように受け止めてあげると、本人も楽になるように感じました。

ESD塾に参加し、他の学部の学生や年の離れた中学生とのかかわりが増え、この経験は将来、社会に出てからも生かされると思います。塾が再開したら、また参加したいと思っています。

理学部数学科３年次生　花上翔さん

ちえん探訪記

#05 平塚市×観光学部

観光学部ではこれまで、平塚市の観光マップ制作に取り組んできました。東海大学が平塚市と協定を締結している「平塚市民・大学交流事業」の一環です。

今回は、平成30年度に制作した「平塚富士山眺望おすすめ地点マップ」と、令和元年度に制作した「湘南ひらつかサイクリングマップ」をピックアップ。平塚市産業振興部商業観光課の府川萌子さんと、観光学部観光学科の片岡勲人准教授にインタビューしました！

（左から）「平塚富士山眺望おすすめ地点マップ」、「湘

両プロジェクトとも、平塚市民・大学交流委員会※の観光推進部会で決定し、若者の視点で平塚市の魅力PRしてもらいたいと思い、観光学部の学生に協力していただきました。

※平塚市民・大学交流委員会……平塚市民、平塚市内にある大学、そして平塚市（行政）が一つになり、大学と地域（平塚）とが相互に交流し、発展していくよう、平成9年11月に設立された委員会。

Q学生がかかわることにより、どのような効果がありましたか？

「富士山マップ」は学生が主体となって高麗山や南金目など現地で調査し、掲載するお店を選んでもらいました。「サイクリングマップ」は平塚市があらかじめお店やルートを提示し、学生に意見を聞いて作りました。

どちらも、若者目線で飲食店などを選んでもらったことで、幅広い層に参考にしてもらえるマップになりました。

Q市民からの反響はありましたか？

市役所の窓口に置いてあるので、「このマップはなに？」と聞かれることがあり、多くの方に興味を示してもらえている様子がうかがえました。窓口のほかにも、掲載しているお店や平塚市の観光協会に置いているので、ぜひお手にとってみてください！

また、「サイクリングマップ」はシェアサイクルのポートに置いてあるラックにも配架しています。

平塚市のことを詳しく知らない学生が多いので、まず市には何があるのかを調べることから始めました。農産物や自然環境を調査し、どのようなお店が掲載に適しているかなどを考えました。

Q制作にあたり、学生の様子はいかがでしたか？

学生たちはお店の取材が初めてだったので、とても緊張した様子でした。2週間ほどフィールドワークを行ったので、平塚市のことを知るいい経験になったと思います。

Q今後平塚市および大学の周辺地域とはどのようにかかわっていきたいですか？

次のプロジェクトに向けて、新型コロナウイルスの状況を考慮しながら調整しています。オンラインで取材を行うなどして、今後も学生が地域連携活動に携わっていけたらと思っています。

南ひらつかサイクリングマップ」

平塚市産業振興部商業観光課
府川　萌子さん

Q プロジェクト発足のきっかけを教えてください

観光学部観光学科
片岡　勲人准教授

Q マップ制作にあたり、学生にどのような指導やアドバイスをしましたか？

大学から地域へ

ー卒業生の方々による地域貢献ー

湘南キャンパス周辺で地域貢献活動に積極的に取り組む卒業生にスポットを当て、
“地域人”としての素顔をご紹介！

Close up!

教育で地域を変える！

早稲田アルパス　東海大学駅前校　塾長
鈴木（すずき）　鯛功（たいこう）さん

- 埼玉県出身、神奈川県秦野市在住
- 東海大学教養学部
  人間環境学科自然環境課程卒業
  大学院理学研究科化学専攻修了
- 趣味は映画鑑賞、写真撮影、
  読書など

• プロフィール

2001年度、教師を目指し32歳で教養学部人間環境学科自然環境課程に入学。教員免許を取得して総長賞を受賞し、06年度に大学院理学研究科化学専攻を修了した。社会人学生として生活していた6年間、東海大学駅前商店会の方々と交友関係を深めていたことから、地域への恩返しのために学習塾「早稲田育英ゼミナール（現・早稲田アルパス）」を開校。日々地域の若者に、これまでの人生経験から得た教訓を伝えている。

教養学部で教員免許を取得した鈴木さんは、教育という得意分野で地域へ貢献するために大学院修了後、東海大学前駅近くに「早稲田育英ゼミナール（現・早稲田アルパス）」を開校しました。今年で13年、塾長として湘南キャンパスの周辺に暮らす中高生を日々支えています。学生時代に塾の講師として働く中で、「子どもたちが気持ちよく学べる環境に、自分の手で変えていきたい」と決心したそうです。

学生の教育にも熱心で、商店会の方々と協力して東海大生を対象とした「東海大学生お悩み相談室」を開催。多い年には月に1回開き、リピーターも多く反響がありました。この経験を地域へ還元したいと思い、2012年に塾内で地域の中高生を対象にした「はだの中高生お悩み相談室」もスタートさせました。この取り組みは、中高生の悩みを聞いて解決に導くだけでなく、近隣の学習塾と協力して開催場所を増やすなど、多くの地域人の心を動かすきっかけとなりました。
（※現在は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止しています）

教養学部人間環境学科の1、2年次生に向けて講演したときは、卒業生として今の学生に伝えたいことや、「大学生活のうちに学ぶことは、勉強以外にも多く存在している」という気づきを話しました。「学習塾を通じて地元の中高生を育て、商店会の一員として東海大生も育てる。自分にできることは限られていますが、教訓や考え方を教えた学生がほかの誰かに伝える、そのような人のつながりによって、より地域に明るさをもたらしてほしい」と、教育による地域貢献のあり方を語りました。地域と人を愛する鈴木さんの今後の活躍に期待です。

「ジャンヌ・ダルクプロジェクト」
東日本大震災で影響を受けた東海大生をなんとか助けたい！ そんな精神でアパートを購入し、破格で学生に貸していました。すごい行動力！

「東海大学生お悩み相談室」
セミナー形式で開催。主に経営者やさまざまな自己啓発本の著者が登壇。「貴重なお話が聞ける！」と評判になり、ある学生は卒業まで4年間参加し続けていたそう。

「はだの中高生お悩み相談室」
小田急線沿線の学習塾も立ち上がり協力！

つかのはらオンライン

平塚市、秦野市、伊勢原市の３市（つか・の・はら）で実施された
大学と地域のオンラインでの連携活動をご紹介します。

思いを込めて発表　「はだの丹沢クライミングパーク」のロゴデザイン案

教養学部芸術学科デザイン学課程の３年次生15名が、今年６月に神奈川県秦野市内にオープンした「はだの丹沢クライミングパーク」のロゴマークとキャラクターをデザイン。７月７日にWEBビデオ会議システム「Zoom」で同市の担当者にプレゼンテーションした。

はだの丹沢クライミングパークは、神奈川県立秦野戸川公園内に新設された秦野市営のボルダリング施設で、オープンにあたって東海大学にロゴマークとキャラクターの制作依頼があり、同課程の池村明生教授が担当する授業「デザイン連携プロジェクト」の一環として、授業を履修する学生たちがデザインを担当した。

学生たちは、丹沢山地やボルダリングのウォールなどをイメージしたロゴマークや、シカなどの動物をモチーフにしたキャラクターを提案。プレゼンに出席した秦野市役所文化スポーツ部スポーツ推進課長の北口慶太氏は、「未来永劫愛されるマークとキャラクターを皆さんと作り上げたい」と話した。

今回のプレゼンをもとに、市の担当者らによってロゴマークとキャラクターが一つずつ選出される予定。

管理栄養士を招いて意見交換　「秦野市が抱える子どもの食の課題」

健康学部健康マネジメント学科の森真理准教授のゼミが７月15日、WEBビデオ会議システム「Zoom」を使って「秦野市が抱える子どもの食の課題」に関する講話と意見交換を行った。同ゼミでは子どもの食環境に興味を持つ学生が多いことから、キャンパスのある秦野市の子どもの食の現状と課題を聞こうと秦野市教育委員会教育部学校教育課の管理栄養士・榎本七海氏を講師に招き、ゼミ生11名が参加した。

榎本氏は、「秦野市は約8000名が通う13校の小学校で学校給食を取り入れており、各校の栄養士が献立を作成し、学校内で調理・提供しています。一方で約4000名が通う９校の中学校では牛乳のみを提供し、それ以外の食事は各自弁当やパンなどを持参してもらっています。牛乳も希望者のみの注文なので、生徒の成長に合わせた栄養量が確保されているとは限りません」と現状を説明。学生からは、「スポーツをするためにはこの栄養素が必要、というように、牛乳を飲まなくてはいけないと強制するのではなく、アプローチを変えて食に興味を持たせてから、主体的に取らせる方法もあると思います」などといった声が上がった。

ちょっとひとやすみ

下にある２枚のイラストを見比べて、**10箇所**の違いを探してみてください！
答えはトコラボWEBサイトに掲載していますので、ぜひご覧ください。
イラストは平塚市の湘南平にある**「ainowa」**がモチーフです。

答え合わせはこちら！

トコラボWEBサイト
URL：https://coc.u-tokai.ac.jp

SDGsやESDをテーマに講演
秦野市「環境教育研修講座」

神奈川県秦野市立の幼稚園、こども園、小中学校の教職員を対象にした「環境教育研修講座」（主催＝秦野市教育委員会）が8月24日にオンラインで行われ、約35人の教員が参加した。2015年に国連が定めた「持続可能な開発目標（SDGs）」や、「持続可能な開発のための教育（ESD）」をテーマに、これらを専門に研究している教養学部人間環境学科自然環境課程の岩本泰准教授が講師を務めた。

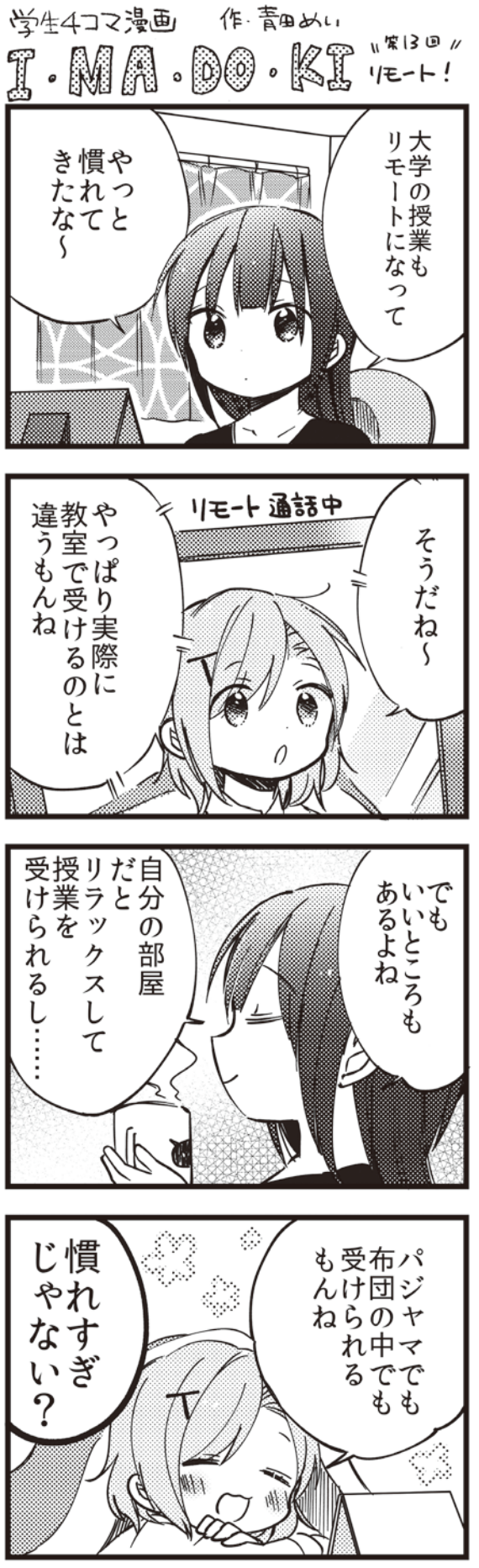
岩本准教授は、「SDGsそのものは概念的であるため、子どもたちに理解してもらうには身近な環境問題や実際に世界で起きている事件などを切り口にすると伝わりやすい」と話し、バングラデシュで起きた劣悪な労働環境の放置によるアパレル工場の崩壊事故（ラナ・プラザ崩落事故）などを紹介。また、国連がホームページで公開している動画「コロナウイルス：自然からのメッセージ」を共有し、伝染病の約75％が由来するという野生生物の不正取引がさまざまな感染症の流行に関与し、新型コロナの感染拡大にも起因していることを説明した。

チャレンジセンターNews

TICCがオンラインで「2020年度にこティー教室」を実施

東海大学チャレンジセンター・Tokai International Communication Club（TICC）が6月3日から、秦野市在住の外国にルーツを持つ子どもたちを対象にした学習支援「にこティー教室」（共催＝はだの子ども支援プロジェクト「ゆう」）をオンラインで実施している。

外国からの移住者や両親が外国籍の子どもへの教育支援活動として、毎年秦野市南公民館を会場に週2回実施してきたが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、WEBビデオ会議システム「Zoom」を用いてオンライン教室を開講。教室には、各日約6名の小中学生、高校生が自宅から参加した。企画責任者の井上祥太郎さん（教養学部国際学科2年次生）は、「オンラインで開講することで、それぞれ自宅から気軽に参加してもらえることがメリット。一緒にオンラインで見ている親御さんに日本語を教えることもあります」と話す。また、「もっと多くの子どもたちに参加してもらえるように周知していきたい」と意気込みを語った。



「げしゅくLife」では毎回、東海大学に在籍する留学生をご紹介！　日々の暮らしや将来の夢など、留学生たちの思いをインタビューします！
さて、今回ご登場いただく留学生は……？

International student's げしゅくLife

四季を感じながら切磋琢磨　日本で未来を切り拓く

マ コウゲンさん ／馬浩元
（文化社会学部心理・社会学科2年次生／出身：中華人民共和国）

中国出身のコウゲンさんは、文化社会学部心理・社会学科の2年次生。2017年4月に来日しました。「雲南省という赤道に近く一年中温暖な気候で育ったため、日本の冬の寒さにはまだ慣れていません。また、地震の多さにもとても驚きました」とのこと。日本語の学校に2年間通った後、高校のスクールカウンセラーをしているお母さんの影響で、心理・社会学科のある東海大学に入学しました。

日本語と中国語はどちらも漢字を使うため似ているように見えますが、コウゲンさんは戸惑うこともあるそう。「日本と中国では意味が違う漢字があります。例えば、『走』という字は、日本では『走る』という意味ですが、中国では『歩く』という意味になります。そのほか、真逆の意味の漢字もあります」と話してくれました。わからない文章は辞書で調べ、友人に聞くなどして日々勉強しています。

趣味は読書やゲーム。主にファンタジー系のジャンルが好きとのこと。最近は、中国の「MOBA」というスマートフォンアプリのゲームに熱中しています。

また、神社仏閣などの古い建物が好きで、過去には京都で伏見稲荷や相国寺を巡りました。北海道にも旅行し、日本の景色を満喫したそうです。

将来はカウンセラーの仕事や、日本語を中国人に、中国語を日本人に教える語学教師の道も考えているとのことです。

東海大学では春学期から新型コロナウイルスの感染防止のため、インターネットを活用した遠隔授業（秋学期より一部科目で対面授業あり）が行われています。留学生の皆さんもコロナに負けず、頑張ってください！

▲京都の相国寺にて。中国4000年にも勝る！？歴史の深さを感じたのだそう！

▲北海道にて。あのキャラクターが雪像に！思わずパシャリ

Vol.5 新たなスタイルで学ぶ　新しい日常

生涯学習講座

東海大学地域連携センターの「生涯学習講座」を大解剖！
毎回ユニークな講座をピックアップしてその魅力に迫ります！

CHECK! 「考古学講座 -先史時代人が崇めた火山と月と太陽-」

こんな方におすすめ！
- ◆古墳・遺跡が好きな方
- ◆古代史に興味のある方

最先端の考古学講座～考古天文学～

講師：北條（ほうじょう） 芳隆（よしたか） 教授
東海大学文学部
歴史学科考古学専攻

日本列島に生きた古代の人々が火山や天体とどのような気持ちで向き合っていたのか、その歴史がどのような形で遺跡に反映されているのか――。「考古天文学」は日本ではなじみの薄い分野ですが、地理情報を観測する技術が進歩したことで、高まりを見せる研究分野です。

文理が融合した考古学の魅力

考古学は文系と思われがちですが、文学部と清水キャンパスの海洋学部が協力した発掘調査など、本学では文理融合で研究に取り組んでいます。うまくお話しできるか不安ですが、実際に遺跡へ赴いたときの経験や気持ちなど、オンラインでも本学ならではの考古学研究の魅力をお伝えできるように頑張ります！

学生への遠隔授業で培った経験を生かして

東海大学では今年度の春学期、新型コロナウイルスの感染拡大により授業がすべてオンラインでの遠隔授業となりました。開始当初は、「最初から最後まで画面に集中するのが大変」といった意見が学生から上がり、「講話は時間で区切る」「画面共有で資料を見せる」など、工夫して講義を行ってきました。本講座でもこの経験を生かし、皆さまに伝わりやすい形でお話しできればと思います。

後期からオンライン講座がスタート！

詳しくは、地域連携センター生涯学習講座のWEBサイトをご覧ください！
https://ext.tokai.ac.jp

Information

東海大学地域連携センター活動報告書「ジョイント」を発行しました！

東海大学地域連携センターは2020年5月に2019年度の活動報告書「ジョイント」を発行しました。本センターは、地域の皆さまや自治体とともに地域課題に取り組み、大学と地域との連携・交流・運営活動を行っています。また、「ジョイント」では、2019年度に行われたさまざまな事業を「地域交流」「地域連携」「地域還元」の3つに分けてご紹介しています。2018年度にTo-Collaboプログラム成果報告書を一新し、「ジョイント」となって2冊目を迎えます。WEBサイトではバックナンバーも公開していますのでぜひご覧ください。

“ちえん”を感じる写真、募集中！

地域連携紙「ちえん」では、東海大学と地域（平塚市・伊勢原市・秦野市）との“つながりを感じる”写真を募集しています。詳しい応募方法・注意事項は下のトコラボWEBサイトのQRコードからアクセスし、ご覧ください。あなたの渾身の1枚が「ちえん」の表紙を飾るかも！？　ご応募お待ちしています。

Tocollabo-sisters

Shark_is_kawaii

いいね！：Bird_kozakura_mofu、 他

Shark_is_kawaii シスターズ編集後記をインスタ風にリニューアルしました！ 7月7日にトコラボシスターズはFacebookで平塚市のオンライン七夕祭り企画「エア七夕まつり」に参加しました！
#エア七夕まつり　#グータッチ　#織姫と彦星

Bird_kozakura_mofu
織姫と彦星は会えたのかな～(^ω^)

Fuwafuwa_hitsuji
来年は七夕まつりが無事開催されますように！

「ちえん」設置場所

東海大学近隣の自治体の施設、地元企業、公民館など約60カ所で配付中！

本紙「ちえん」の専用ラックを設置していただける施設やお店を募集しています。東海大学地域連携センター地域連携課までお問い合わせください。

TEL：0463-50-2406
E-mail：chiiki@tsc.u-tokai.ac.jp

WEB

東海大学のさまざまな地域連携活動の情報や、ちえんバックナンバーを掲載しています。ぜひご覧ください！

トコラボWEBサイト

URL：https://coc.u-tokai.ac.jp

facebook

トコラボシスターズ：大学と地域をつなぐ3人娘（いんこ・ひつじ・さめ）とマネージャー（ふくろう）が奮闘中！ Follow me！

トコラボシスターズ

トコラボシスターズ　検索

ご意見・ご感想をお聞かせください

地域連携紙「ちえん」についてのご意見・ご感想など、お気軽にご投稿ください。
詳しくは右記QRコードからアクセスし、WEBサイトをご覧ください。
東海大学地域連携センター地域連携課宛にメールでも随時受付中。

東海大学地域連携センター地域連携課
E-mail：chiiki@tsc.u-tokai.ac.jp

地域連携紙「ちえん」次号は12月発行の予定です。

東海大学
Think Ahead, Act for Humanity